

全国学力・学習状況調査の概要

学 力 面	学 習 状 況 面
<成果> ○ 国語科では、全体的に県平均、全国平均を上回ることができた。特に、言葉の意味や使い方をよく理解できているので、文章の内容把握や話合いの内容を捉える選択問題が正しくできていたと考えられる。 ○ 数学科では、基礎的な知識・技能は県と大差ない。また、データを読み取り活用する問題には県を大きく上回ることができた。また、説明以外の無回答率は低い。 ○ 英語科では、リスニングは比較的できている。リーディングの読み取る問題では、日常的な場面で必要な情報を取ることや、自分に身近な内容を表現することは比較的出来た。 <課題> ▲ 国語科では話合いを受けて自分の考えをまとめて書くことができなかった。また、文章を効果的に相手に伝えるための構成の工夫や展開の意図を捉えることができなかった。 ▲ 数学科では、自分で解決方法を考えたり、判断した理由を数学的に説明したりする問題が弱い。 ▲ 英語科では、まとまった情報から要点を捉え、それをもとに考えを整理して正確に表現することに課題がある。	<成果> ○ 国語や数学の学習が将来役に立つと考えている生徒の割合が高く、学ぶ意義を感じながら授業に取り組んでいる様子が見られる。 ○ 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」については肯定的回答が全国と同程度であった。与えられた課題に対して、自分で考えながら取り組む姿勢は一定程度身に付いている。 ○ 自己肯定感や学校生活への安心感は比較的高く、学習に向かうための集団としての基盤は整っていると考えられる。 <課題> ▲ 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」の回答が県、全国を下回った。自分の理解状況に応じて学び方を選択・工夫する力に課題がある。 ▲ 話し合う活動は行われているものの、対話を自分の考えの深化や修正につなげることに課題がある。 ▲ 「学習した内容について、分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」は、県・全国をやや下回った。振り返りを次の学習方法や行動の選択につなげることに改善の余地がある。 ▲ 家庭学習についても、平日に1時間以上学習する生徒の割合が県・全国より低く、授業での学びを家庭での学習につなげ、自分で学習を進める力を育てていく必要がある。



改 善 策

学 校 で の 取 組

- ① 自分で考え、学び方を調整する授業づくり
 - ・ 良質な問いを設定し、生徒が課題に対してまず自分で考える時間を確保する。
 - ・ 教師の支援と生徒の自己調整を組み合わせ、生徒自身が学び方を選択・工夫できる場面を取り入れる。
 - ・ 分からないときに、教科書、友だち、ICT、既習事項などを活用し、自分で学びを進められるよう支援する。
- ② 対話を通して考えを深める授業づくり
 - ・ 教師がファシリテーターとして、生徒の考えを引き出し、安心して意見を交流できるペア・グループ・全体共有の場を設定する。
 - ・ 「理由」「根拠」「具体例」をもとに考えを伝え合い、他者の考えと比較しながら理解を深める活動を充実させる。
 - ・ 話し合うこと自体を目的とせず、対話後に自分の考えを修正・付加・再構成する「再アウトプット」を大切にする。
- ③ 振り返りを次の学習につなげる
 - ・ 「分かったこと」だけでなく、「どのように学んだか」「次にどうするか」を考える振り返りを行う。
 - ・ 振り返りを次時の学習や家庭学習につなげ、生徒自身が次の学び方を選択できるようにする。
 - ・ ICTも活用し、授業と家庭学習の接続を図る。
- ④ 安心して学び合える集団づくり
 - ・ i-check や学校独自アンケートを活用し、生徒一人一人や学級・学年の状況を継続的に把握する。
 - ・ 「ほめ言葉のシャワー」等の取組を通して、互いを認め合い、安心して考えや分からなさを表現できる関係づくりを進める。
 - ・ 間違いや異なる考えを学びにつなげる学級・授業風土をつくる。

一貫教育 あい・鴨方学園 での取組

- カリキュラム「あい・かもがた学」に沿って、中学校区で一貫した指導を行い、基礎学力の定着、学び合い活動の充実を図り、自立した学習者を育成する。
- 「ほめ言葉のシャワー」の取組を通して、互いに認め合う温かい人間関係作りに努めるとともに自己肯定感を高めることができるようにする。
- 各校の授業参観や研修、情報交換の機会を設け、対話を通して考えを深めることや、振り返りを次の学びにつなげることにについて、校種を超えて共通理解を図る。

家庭・地域へのお願い

- 課題は必ず1日に一つは出ているので、保護者に確認していただき、生徒自身が課題にどのように取り組んでいるか確認していただきたい。
- ネットの使い方について、ルールを話し合うなど、家庭でよく相談していただきたい。
- コミュニティ・スクールの活動を通して、学校、家庭、地域が、より強固に連携・協力しながら地域の宝である子どもたちを育てていきたいと考えています。ご協力、お力添えをお願いします。